千建協京葉支部

永年勤続４人を表彰

賀詞交歓会で団結示す

尾頭支部長（前列中央）とともに写真に納まる永年勤続の受賞者

建設技術の向上に取り組んだ４人をたたえた永年勤続表彰式

県建設業協会京葉支部（尾頭博行支部長）は16日、「永年勤続表彰式並びに新年賀詞交歓会」を浦安市内のホテルで開き、勤続15年以上で勤務成績が優秀な従業員４人を表彰するとともに、企業間で新年のあいさつを交わし団結を示した。来賓には、県葛南土木事務所の古橋保孝所長、県葛南港湾事務所の桐木靖所長、県江戸川下水道事務所の吉澤寿二所長らが出席した。

尾頭支部長は、来賓の出席に謝意を述べるとともに、表彰者のこれまでの苦労に対し敬意を示し、祝意を伝えた。また、「ひのえ午は、単に勢いがある年だけでなく、強いエネルギーをいかに制御し、正しい方向へ導くかが問われる年だ」とした上で、「支部としても、勢いに任せることなく、安全第一で確かな品質と責任ある施工を積み重ね、受発注者間の信頼関係を強化する」などと抱負を述べた。県土強靭化や地域防災力の向上に向けた取り組みが進められていることについては、「地域建設業への期待と責任の重さを実感する」などと強調した。

尾頭支部長

古橋事務所長は身に余る光栄。これからも一層業務に精進を重ね期待に応えたい。今後もご指導、ご鞭撻を賜りたい」などとする謝辞を述べた。

吉澤事務所長の発声で全員が乾杯し、各企業は新年のあいさつとともに、交流を深め意見を交わした。

受賞者は次の通り。▽受賞者＝①所属②勤続年数―の順、敬称略。▽久保真一＝①大城組②23年7カ月▽進藤雄太＝①上條建設②21年7カ月▽谷大介＝①京成建設②24年7カ月▽菅直哉＝①同②23年7カ月

古橋事務所長

賀詞交歓会では吉澤事務所長が乾杯の発声をした

不足などの課題に触れ、「インフラ整備や災害対応に感謝する。業界と葛南地域の持続的な発展のためにも意見交換を通して、品質向上、適切な発注、現場に応じた設計変更、施工時期の平準化に努める」などと述べ、地域の守り手としての協力を求めた。

永年勤続者表彰では、尾頭支部長が受賞者一人一人に表彰状を手渡し、受賞者を代表して京成建設の谷大介氏は、「受賞

パシコンで計画着手

総合公園プール建替え

野田市

野田市は、総合公園水泳場の解体検討と新施設の整備基本計画策定支援業務をパシフィックコンサルタンツ（千葉事務所・千葉市中央区）に委託した。契約方法は随意契約、税込みの契約金額は1067万円。2026年度末をめどに基本計画の策定を進めるとともに、27年度までの3年程度、物価変動や市の財政状況を確認しながら事業化時期を判断することにしている。

総合公園水泳場跡地については、市内全小中学校が水泳授業を実施できる25mプール2つのほか、流水プールなどレジャープールを新設することを計画。23～24年度に民間活力導入可能性調査を同社に委託し、実施した。

その結果、課題として、建設費高騰による市の財政負担への上振れのリスクが高いこと、事業者の参入意欲を高めるため既存プールの解体工事を先行して進めることが望ましいこと、学校プールの在り方について、さらに詳細な検討が必要であることなどが指摘された。

そこで、直ちに事業化を図るのではなく、物価変動や市の財政状況を確認しながら事業化時期を判断する。

既存プールは26年度に解体するため、同業務の中で25年度中に設計条件などを整理してもらう。解体設計は、庁内でまとめることを想定している。

解体に着手する総合公園水泳場

基本計画の策定にあたっては、市内の小中学校全ての利用は立地などの観点からも課題が多いため、新水泳場への集約だけでなく、複数学校での共同利用や、他施設との複合化などの他の方法と合わせて効率的な学校プールの在り方を検討する。その上で、施設の最適な機能や規模などを検討する。

VFM（バリュー・フォー・マネー）を試算したところ、起債を活用する場合の公共の財政負担額（現在価値化後）は、DBO方式が94億5713万円、BTO方式が95億5000万円で、事業手法はDBO方式が優位という結果となった。

賀詞交歓会に200人参加

千葉空衛協会

金子会長「若手入職」進める

県空調衛生工事業協会（千葉空衛協会、金子達也会長）は15日、千葉市内のホテルで会員、来賓ら約200人が参加した新年賀詞交歓会を開き、会員らの団結を表した。県電業協会の細矢充会長の発声で乾杯し、新年のあいさつとともに親交を深め、災害対応などについても意見を交わした。今年もさらに職場環境の改善、生産性向上、若手入職者の確保を進めるとしている。

来賓には、熊谷俊人知事、宮坂奈緒県議会県土整備常任委員会委員長、神谷俊一千葉市長らが出席した。

金子会長は、来賓に謝意を表した後、建設業の時間外労働の上限規制に触れながら、若い人の入職とともに、週休2日制などに取り組むとの決意を示した。このためには、「受発注者がクラウドで情報共有、BIMの積極採用など、作業者の負担軽減で、脱炭素化とともに生産性向上を進める」と強調。また、生活、教育環境の向上のためにも「安定的な工事件数の確保を望む」などとした。

金子会長

生産性向上に取り組むことを確認した賀詞交換会

県内の学校で実施している出張授業、出前講座については、「生徒は、進学、就職を考える上で、授業を参考にしてほしい。将来の担い手を確保するためにも児童・生徒に業界のPRを続ける」と協会の意気込みなどを話した。

出張授業は、若手技術者の確保・育成事業の一環として、県内高校などで実施しているもので、就職活動を控えた生徒に「建築設備技術者はどのような仕事をしているのか」をテーマに、講演や建築設備に携わる若手社員らとのディスカッションで業界の魅力を伝えている。協会は、新機軸として出張授業に今後も力を注ぐ構えだ。

来賓の熊谷知事は、県民の快適な生活や学校生活での学習環境の整備、災害時の空調設備復旧などに触れ、「災害時の一日も早い設備復旧に力を貸してほしい。夏の猛暑が続く中、県立学校の空調設備導入を急ピッチで進めている。工業高校の魅力を高めるためにも施設を整備し、インフラを支えている協会の力を若い人に伝えることで、建設業界を支えたい」と話した。

宮坂委員長は、建設業を取り巻く環境について、「人手不足、高齢化、資材高騰など厳しい状況にある」と述べるとともに、「県民生活向上への貢献、脱炭素化や快適な生活のために、県民の協会への期待は大きい」などとした。

熊谷知事

宮坂委員長

神谷市長

来賓の細矢会長が乾杯の発声をし、祝宴がスタートした

神谷市長は昨年、市内小学校給食室への冷暖房設備が完了したことを挙げ、協会の安全で機能的な生活環境の維持に謝意を示した。その上で、避難所として利用する体育館の空調整備に取り組む方針を示し、「生活環境の向上に力を注ぐ」とし、協会の協力を求めた。

乾杯の発声をした細矢会長は、建設業界の担い手不足や猛暑での現場作業について「空調のプロとして、技術力で現場の空気を変えてほしい」などと話した。

指定管理で市場調査

萬力地区　長熊釣り堀施設など

旭市

旭市は、萬力地区にある長熊釣堀センターと長熊スポーツ公園の指定管理業務に関するサウンディング型市場調査を実施する。利用者のさらなる利便性向上や幅広い年齢層を含めた利用者数の増加を目指すとともに、観光振興や地域活性化につなげるのがねらい。

スケジュールは、30日まで参加希望者を対象として申し込みを受け付ける現地見学会を2月10日に開催後、3月3日までサウンディング参加への申し込み、3月10日まで提案書をそれぞれ受け付け、3月17日と翌18日のサウンディング実施、3月末頃の実施結果概要の公表を予定している。サウンディングの対象となるのは、指定管理者として両施設を管理・運営する能力を持つ法人または団体とする。

各施設の構造・規模をみると、長熊釣堀センターは木造平屋132㎡の管理棟のほか、延べ17㎡規模のトイレ2棟（軽量S造平屋10㎡と木造平屋7㎡）、木造平屋10㎡の倉庫1棟、2316㎡（69台分）の駐車場や、長さ約47m～90mで配置される桟橋6基（合計延長約416m、釣り座敷297席分）などにより構成されている。

また長熊スポーツ公園は木造平屋9㎡規模のトイレ1棟や、軽量鉄骨造平屋10㎡の倉庫、木造平屋12㎡のゲートボール休憩所1棟、5520㎡の野球場1面、2434㎡のゲートボール場2面、1488㎡（38台分）の駐車場の施設などを擁する。

このうち主な施設となる長熊釣堀センターは2008年に大規模全面改修工事を施したが、老朽化が進んでおり、桟橋や池の土留めなどに一部破損が見られる状況。安全性や快適性の確保に向けた効率的な改修方法を検討している。また、近年はカワウによる補食の影響で釣り堀内のヘラブナが減少し釣りの成果が低いといった声が寄せられていることから、見回りや音による追い払いを実施するとともに、効率的な対策を模索している段階とし、アイデアを募る。

サウンディング項目は▽指定管理者制度による施設運営▽新たな活用方法▽維持管理費の削減に関するアイデア・提案など▽草刈や樹木剪定など市内業者らの活用▽施設利用促進▽交通弱者に対するアイデア・提案――などとしている。

船橋に新倉庫

投資額58億円

ワイズマート

地域密着型スーパーを展開するワイズマート（浦安市）は19日、船橋市西浦地区に「ワイズマート西浦センター」を建設することを明らかにした。生鮮プロセスセンターとドライ・チルド・冷凍の物流センターを同一施設内で運営する。投資額は58億1800万円。10月の竣工を見込んでいる。

建設・設備導入にあたっては、経済産業省の「中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金事業（4次公募）」の対象事業に採択された。

ワイズマート（旧社名・吉野物産）は1969年の設立。千葉県や東京都で食料品スーパーマーケット42店舗を運営している。

さらなる業界発展目指す

県コン製品組合が賀詞会

約30人が一堂に会し、新年の意気込みを語り合った

寺田理事長

斉藤専務理事

関東コンクリート製品協会の永吉副会長が乾杯の音頭

県コンクリート製品協同組合（県コン製品組合、寺田裕之理事長）は16日、千葉市内のホテルで賀詞交歓会を開催した。県中小企業団体中央会の斉藤清専務理事をはじめとした多数の来賓と組合員らあわせて約30人が集い、コンクリート製品業界のさらなる発展と「未来」に向けて、士気を高めている。

寺田理事長は、大きな転換期を迎えようとしている昨今の社会情勢に言及すると、先行きの不透明さに対して「こうした時代だからこそ、われわれは変化を的確にとらえ、柔軟に対応していく姿勢が求められている。厳しい競争環境にあっても、確かな仕事を積み重ねることで生き残っていかねばならない」とし、組合はその中核として県内インフラ整備を支え、自然災害に備えることで県民の安全・安心に貢献していきたいと決意を示した。

その上で、コンクリート製品といえば「未来」と言われるような業界にできるよう、さらなる発展に向けてあいさつするとともに、声高らかに乾杯の音頭を取っている。

来賓を代表して登壇した県中小企業団体中央会の斉藤専務理事は、エネルギー価格や原材料費、人権費の高騰により企業収益が悪化するとともに、人手不足や後継者難など対応すべき課題が山積みとなっている中小企業を取り巻く環境を語ると、組合と中央会でこれまで力をあわせて歩んできた足跡を振り返った。続けて、県内唯一の中小企業との連携組織で支援機関である中央会が創立70周年の節目を迎えたことに触れ、国・県の理解を得ながら、さまざまな支援に力を注いでいきたいと結んでいる。

その後は、関東コンクリート製品協会の副会長で、東京都コンクリート製品協同組合の理事長も務める永吉哲郎氏が登壇。身近なコンクリート製品に関する話題に言及しつつ、業界のさらなる発展に向けてあいさつするとともに、声高らかに乾杯の音頭を取っている。

造園土木工事・造園材料
知事許可（特定）623号
千葉造園土木株式会社
千葉市稲毛区黒砂台２－12－７
☎043－243－7721㈹
FAX043－243－7753
樹木養生場所　匝瑳市東小笹
〃　八街市八街
芝生養生場所　茨城県つくば市

WOOD TEC
きれいな水と空気
そして安全な暮らしを考えます。
ウッドテック株式会社
千葉県印西市小林3990-1
TEL：0476-97-2551　FAX：0476-97-2559
URL：http://www.wood-tec.co.jp
印西・千葉
東京・成田